

～令和5年度～【太田川流域学校自然体験事業】

「森づくりを体験しよう！私たちにできるSDGs！」を指導

1班 吉村 隆文《9月28日(木)東広島市立志和小学校》



#### 【太田川流域学校自然体験事業】の始まりと関わり

2002年7月、太田川流域で環境活動に取り組む12団体が「太田川たんけん協会」を設立。その後、広島市を含む11の流域市町村を元気にする活動をスタートさせた。設立意義は「流域連携」「河川環境保護」「環境教育」を推進すること。

当会は、協働できる地域団体の発掘に苦労しながらも、ネットワークをフル活用して口田、井原、志和口、向原の「保垣照山会」などの団体の協力を得て、2003年から上流下流の小学生児童を招いて多彩なプログラムを展開。年間2～3件を受け入れ現在まで延べ約2500人に森林の重要性を継続的に伝えている。

■地球温暖化。いや地球沸騰化の長い夏がようやく陰りを見せた頃、「スクウスクの森」での自然体験活動の為、一路白木へ。沿道にはひときわ鮮やかに真っ赤なヒガンバナが咲き、なんだか胸を締め付けられる。

当日は、志和小学校4年生40名の生徒と3名の教員が集い、森の中のヒノキの伐倒と自分たちで切った木を使って木工クラフトを体験。妙國寺ご住職のお話の後、<sup>あづまや</sup>四阿前の広場に向かう道には、今年もまん丸大きなオニフスベ(キノコ)も顔を出してお出迎えの中、プログラムが始まる。

■「森の木を切ってもいいと思う人？」山本理事長の問いかけに、全員が勢いよく手を挙げ、事前学習もばっちりな様子に理事長も嬉しそう。その後、見勢井顧問の危険生物の話へと続き、私は木の倒し方の説明を行いました。

子ども達は、森の中に入ると高く伸びたヒノキの森に目を丸くしながら嬉しそうに自然を感じている様子、折角なので、自然を楽しむための秘訣である「五感」について話をし、作業に取り掛かりました。私達の作業場は急斜面になっており、子ども達には少々大変な場所でしたが、木を倒す方向や退避場所を確認して受け口作りを開始。どの子も斜めにノコを入れる所で苦戦しながら木を切る事の大変さを実感している様子。それでも、みんな根気強くノコを挽いておりました。

■追い口を半分ほど切り進んだ所で、ロープの位置に移動して倒す準備OK。待っている子ども達からは、がんばれコールが飛び出す中、ツルを残し切り込み完了。合図とともにみんなで一斉に引っ張ると、大きなヒノキがゆっくりと音を上げて倒れ、思わず歓声があがりました。枝打ち、玉切りになるとさらに力強く躍動する子ども達。元気な姿が実に頼もしい！斜面で滑りそうになりながらも、体験した班のメンバー7人が全員、笑顔でやり切りました。

昼食後の木工クラフトも、好きな大きさにスライスして穴をあけたり、枝を刺したり、皮を剥いて無垢の棒を作り、木の香りや手触りを楽しんでいました。

子どもたちは森や樹木への興味と同じように、山に携わる私たち大人にも興味津々。休み時間もしきりに手を振ってきたり、話しかけてきたりと視線を向けてきました。

■私たちの背中、彼らに何かを伝えられたのかな？

何かを伝えようとすればするほど、いつも何かを教わっている気がする……。未来への森づくりが、途切れる事無く続く事を願って、これからも出来る事をやろう。

### R5 年度受け入れ小学校

6/13	広島市立 山田小学校	3年生 26名
9/28	東広島市 志和小学校	4年生 40名
10/5	安芸高田市立 向原小学校	5年生 21名
11/1	広島市立 高南小学校	4年生 25名

